【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第４区分
【発行日】平成23年11月10日(2011.11.10)

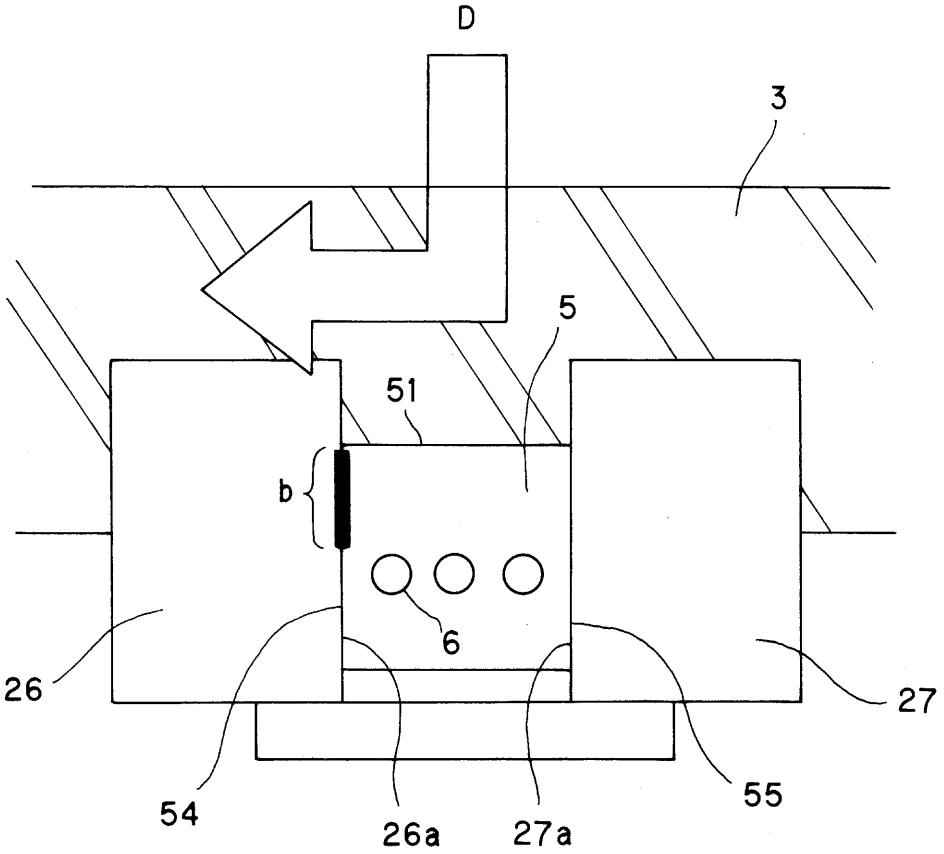
【公開番号】特開2009-90511(P2009-90511A)
【公開日】平成21年4月30日(2009.4.30)
【年通号数】公開・登録公報2009-017
【出願番号】特願2007-262033(P2007-262033)
【国際特許分類】
Ｂ２９Ｂ　7/60　(2006.01)
Ｂ２９Ｂ　7/64　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ２９Ｂ　7/60
Ｂ２９Ｂ　7/64

【手続補正書】
【提出日】平成22年9月10日(2010.9.10)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００４】
押出機１００は、円筒部１０１ａと、円筒部１０１ａの一方の端部側に設けられ供給口１０１ｂと、供給口１０１ｂとは反対の端部側に設けられた排出口１０１ｃとを備えたハウジング１０１を有しており、円筒部１０１ａ内にスクリュ１０２が回転可能に組み付けられている。スクリュ１０２の供給部１０２ａには、フィードローラ１０３が平行に隣り合って設けられている。フィードローラ１０３は、スクリュ１０２の回転方向とは逆方向に回転可能にハウジング１０１に組み付けられている。また、スクリュ１０２及びフィードローラ１０３を挟んで供給口１０１ｂとは反対側にスクレーパ１０４が取り付けられている。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２６】
スクレーパ５は、ハウジング２における円筒部２０を挟んで供給口２１の下方（供給口２１とは反対側）に設けられた軸方向に延びる取付面２３に、ボルト等の締結具６によって取り付けられている。ハウジング２の取付面２３の軸方向両側には一対の取付部２６、２７が設けられており、スクレーパ５は、取付部２６、２７によって軸方向の両側が挟まされている。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２９】
本実施例に係るスクレーパ５は、ハウジング２の取付面２３に当接するスクレーパ５の取付面５３や、ハウジング２の取付部２６、２７における対向面２６ａ、２７ａに当接す

る側面５４、５５に、逃し溝７が設けられている。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３２】
スクレーパ５は、材料の漏れの観点から、取付面２３や対向面２６ａ、２７ａとの間に隙間なく密着して取り付けられることが好ましいが、取付面２３や対向面２６ａ、２７ａがハウジング２の一部として形成される場合には加工精度の限界から、スクレーパ５と取付面２３や対向面２６ａ、２７ａとの間に、隙間が形成されてしまう。
【手続補正５】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図４
【補正方法】変更
【補正の内容】

【図４】

(a)



(b)

